

平成17年12月期 決算説明会

株式会社メディビック

(証券コード2369 東証マザーズ)

本日のご説明内容

1. 業績概要

2. 事業別概要

～前期(平成17年12月期)までの取り組み
及び今期の事業戦略～

3. 今期の見通し

1. 業績概要

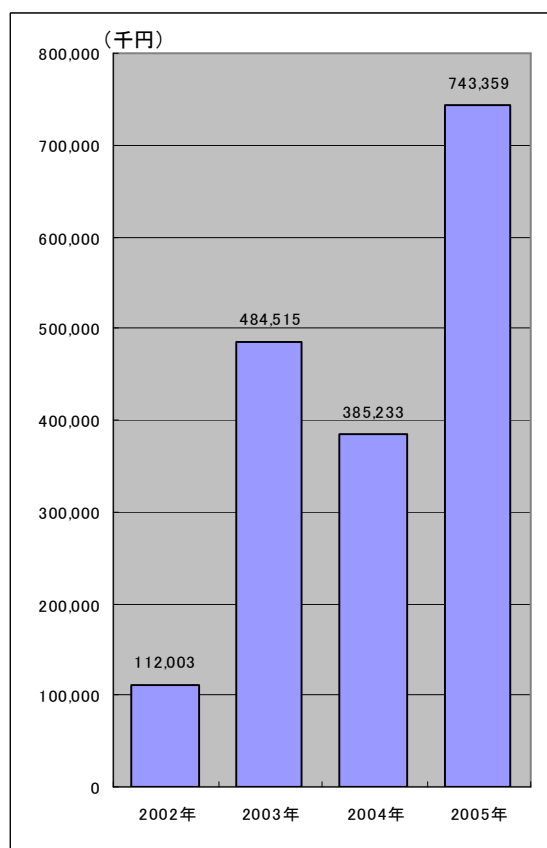
1-1. 主要經營指標(連結)

■ 主要經營指標(連結)

	2004年	2005年	増減
売上高 (千円)	385,233	743,359	358,126
経常損益 (千円)	△611,956	△411,537	200,418
当期純損益 (千円)	△632,462	△425,452	207,009
株主資本 (千円)	2,019,490	2,280,194	260,703
総資産 (千円)	3,482,469	3,273,769	△208,700
株主資本比率 (%)	58.0	69.7	

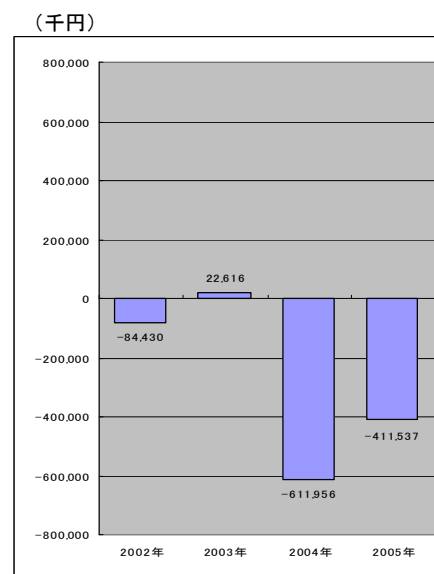
1-2. 売上高／経常損益の推移(連結)

売上高(連結)



※当社は2004年が連結初年度になります

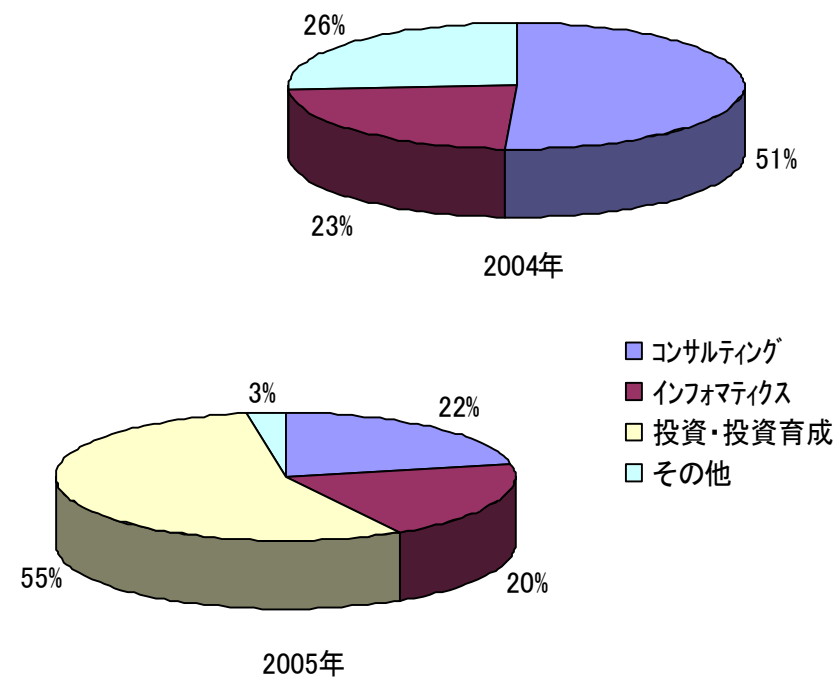
経常損益の推移



2005年連結会計年度に掲げた施策の実現で、売上が倍進し、経常損失も良化。2006年以降も、最終損益の大幅な改善に向けて早期黒字化を目指す。

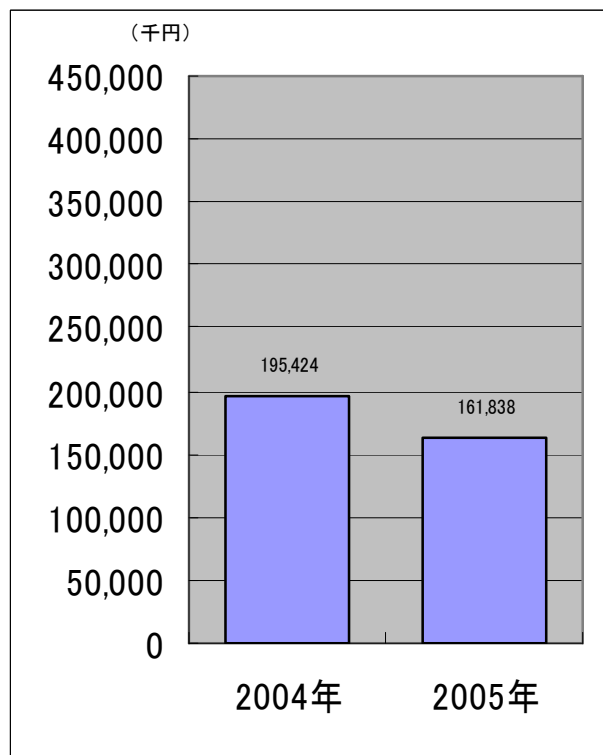
1-3. 売上高 <事業別 前期比較>

	2004年	2005年
売上高 (千円)	385,233	743,359
コンサルティング (千円)	195,424	161,838
インフォマティクス (千円)	88,830	147,509
創薬 (千円)	0	0
投資・投資育成 (千円)		413,198
その他 (千円)	100,978	20,812



2. 事業別概要

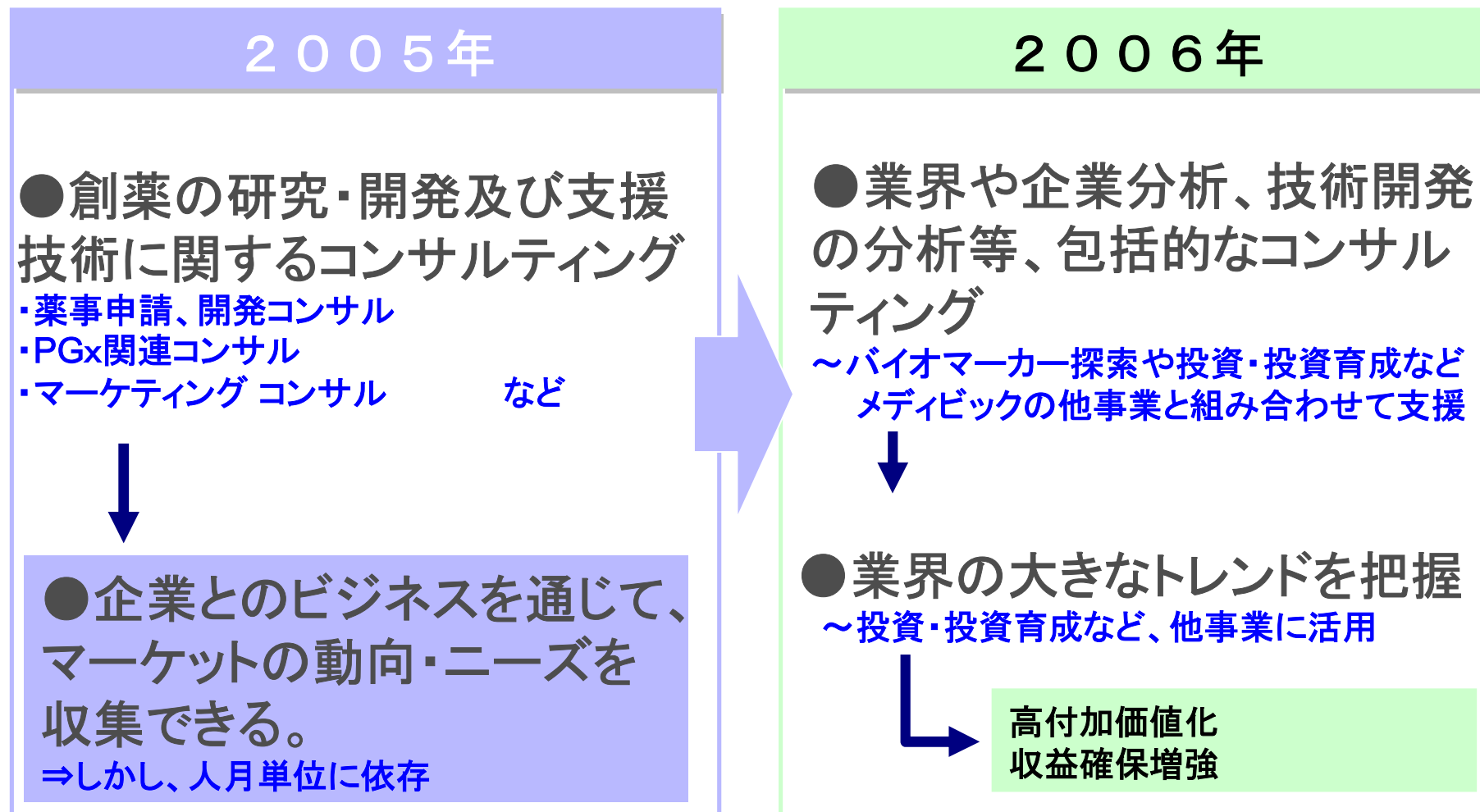
2-1. コンサルティング ①2005年の実績<前期比較>



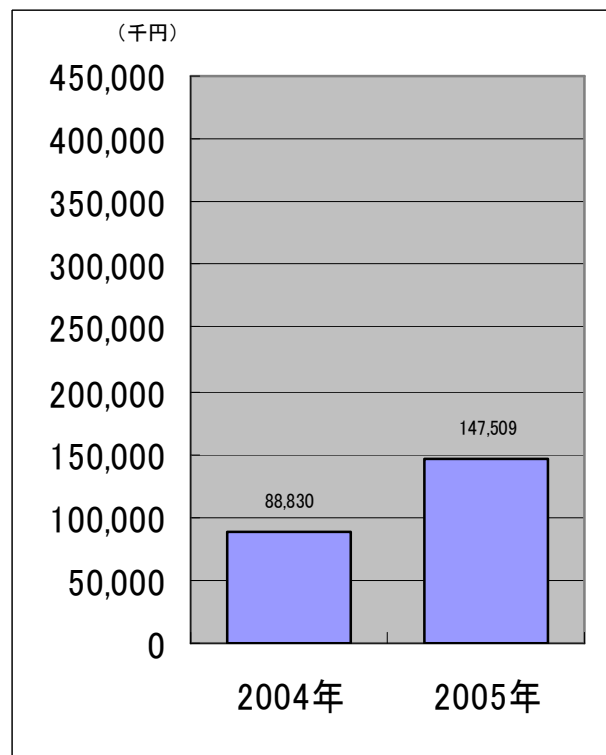
<前期比較グラフ>

- 国内や米国FDA申請業務や新医薬品・医薬機器の開発支援業務など、堅調に推移
- 2005年から投資・投資育成関連のコンサルティング売上は投資・投資育成事業へ移行

2-1. コンサルティング ②今期の事業戦略



2-2. インフォマティクス ① 2005年の実績<前期比較>



<前期比較グラフ>

メディビック 独自開発 データマイニング技術



Strand Life Sciences社との共同開発技術(2004年)



● バイオマーカー解析システムの提供
(例: 遺伝子解析ソフト avadis)

● 2005年2月に提携を始めた
NuGEN Technologies社との
共同ソリューションの販売などで
新規受注を獲得。

[NuGEN Technologies Inc.(アメリカ)]

ゲノムやたんぱく質の検出技術・増幅技術の開発や販売を行う。

微量RNA増幅技術ソリューション提供で、2005年2月からメディビックと提携を開始。

2-2. インフォマティクス ② 今期の事業戦略

2005年

●インフォマティクス事業から
遺伝子及び他のバイオマーカー(生体内の
変化の指標)と疾患の関係、それらと薬の
関係の解析を通じて、新薬研究開発の
各プロセスを効率化するソリューション提供

●バイオマーカー探索
へサービスの拡大

2006年

●バイオマーカー探索の複
合的な支援へ

●情報システムの提供 + 情報処理
システムとデータ管理・解析業務

●研究関連プロダクトの提供

●事業提携の強化 など

●バイオマーカー探索技術の
強化

●基礎はデータマイニング技術

●経営資源を集中

●内部IPを蓄積し、企業価値を向上

2-2. インフォマティクス ③ 収益安定化施策

■収益安定化施策

(1) 販売・受託業務から、独自の知的財産獲得に基づく
ロイヤリティモデルへ

(2) プロジェクト単位の契約獲得強化

(3) 研究データ管理等長期契約獲得強化

(4) ソフトウェア売切りから、年間契約型へ

— avadisの年間契約へ

— データマイニングの契約規模拡大を目指す

■ バイオマーカー探索支援とは

—— 新薬研究開発ステージにおいて ——

- (1) 前臨床ステージでの毒性予測
- (2) 臨床開発サロゲートマーカー利用による開発効率化
- (3) 臨床研究におけるバイオマーカー探索
- (4) 市販後の調査におけるバイオマーカー探索とその利用

■ 今後期待される動向(2006年)

(1) 厚生労働省

個別化医療のために、バイオマーカーと遺伝子の関係をデータ化したPGx(ファーマコゲノミクス)を用いた医薬品開発について、情報を集約し方針を定めつつある。

(2) 欧米製薬企業のバイオマーカーへの投資 増大

大手製薬企業の一つである米国メルク社は、循環器系化合物の開発において動脈硬化の新規バイオマーカーを探索するために900万ドル掛けることを発表。

(2005年9月)

(3) 米国でのバイオマーカーコンソーシアムの設立

■ バイオマーカー探索支援 の ビジネスモデル

— 解析ラボラトリーを持たない

積極的な解析技術提供企業との提携

— データ解析を通じた、高付加価値ビジネスへ

データ解析のための計画立案から、解析、プランニング、プロジェクト等のトータルマネジメントまで支援

— データ解析の経験より、解析ラボラトリーへのフィードバック

新規技術、技術改善の共同開発



IPを共有

2-3. Glufosfamide (グルフォスファミド) について

2005年

グルフォスファミド

隣がんを対象とした抗がん剤。
米国で単剤による第Ⅲ層、併用治療による
第Ⅰ／Ⅱ相臨床試験を実施中。

メディビック

THLD社 ※

日本を含むアジア地域における抗がん剤グルフォスファミドの開発、販売を行うための共同開発開始

- 国内治験戦略の設計合意
メディビックとTHLD社の専門家からなる
「共同開発委員会」で本剤の国内治験を設計

2006年～

●抗がん剤グルフォスファミド の国内臨床開発開始

- ・治験実施施設決定
- ・治験届け 提出

※THLD社=Threshold Pharmaceuticals, Inc(アメリカ)

2-4. 投資・投資育成 ① 2005年の実績

● メディビックのコンサルティング事業を通じて拡大する 投資・投資育成ニーズ、ベンチャー企業の投資のためのファンド組成ニーズを受け、2005年6月に子会社メディビック・アライアンスがライフサイエンス企業を中心とした投資銀行業務を開始。

● 投資先は約20社。うち2社上場済み。

2005年9月 JASDAQ コスモバイオ株式会社

2006年1月 KOSDAQ Crystal Genomics, Inc.

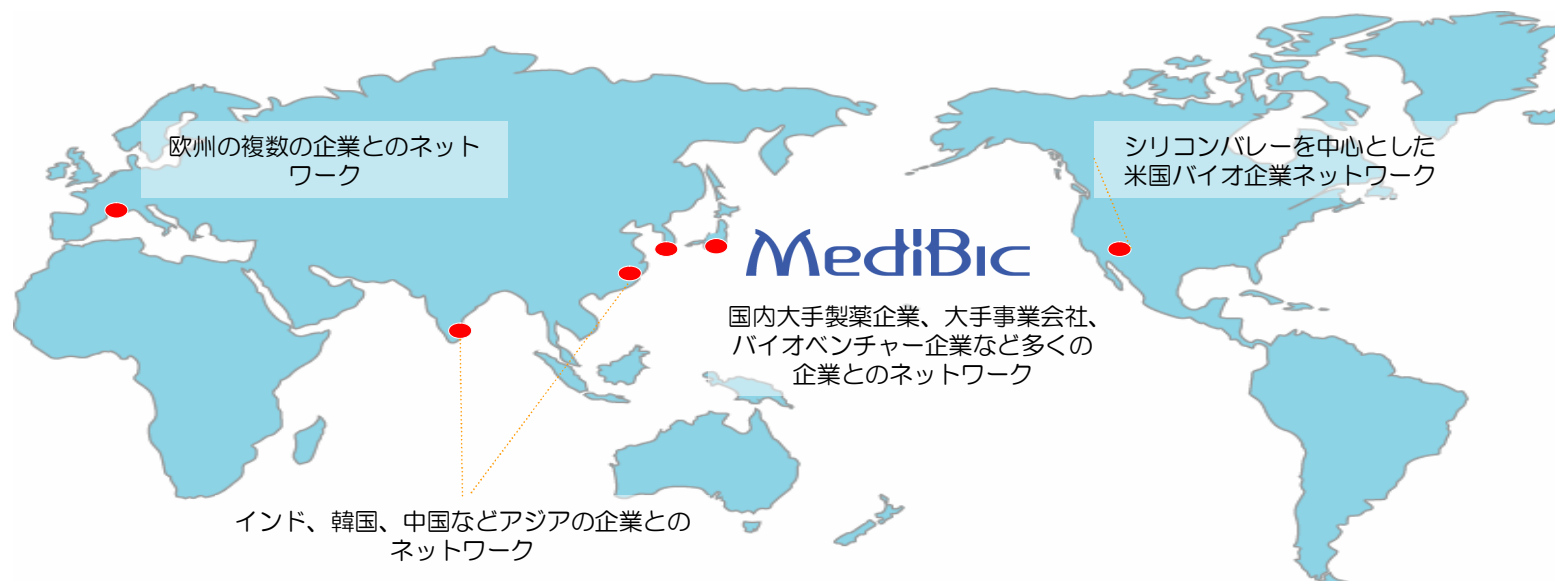
2-4. 投資・投資育成 ②今期の事業戦略 及び 今後の見通し

● アジアを中心とした高度成長地域企業に対する

医療関連マーケット形成支援

● 国内ライフサイエンス企業に対する投資育成と事業共同体の形成

● 中国・韓国を中心にライフサイエンス以外の分野への投資開始



3. 今期の見通し(まとめ)

3. 今期(2006年期)の見通し

グループ全体としての成長を見据えた
新たな経営体制を確立 ⇒ 持株会社体制への移行

- ・グループ全体で戦略立案(機動的・柔軟な経営、経営資源の集中)
- ・各事業基盤を拡充(企業価値向上)

○ コンサルティング事業

～戦略コンサル機能を強化し、他事業への専門的な支援を行うことで、
グループ全体の収益確保に貢献する

○ インフォマティクス事業

～ データマイニング技術を基盤としたバイオマーカー探索技術の提供によって、より専門性の高い分野へシフト

○ 創薬事業

～ 抗がん剤 グルフォスファミド の国内臨床開始。治験実施施設 決定。
治験届け 提出。

○ 投資・投資育成事業

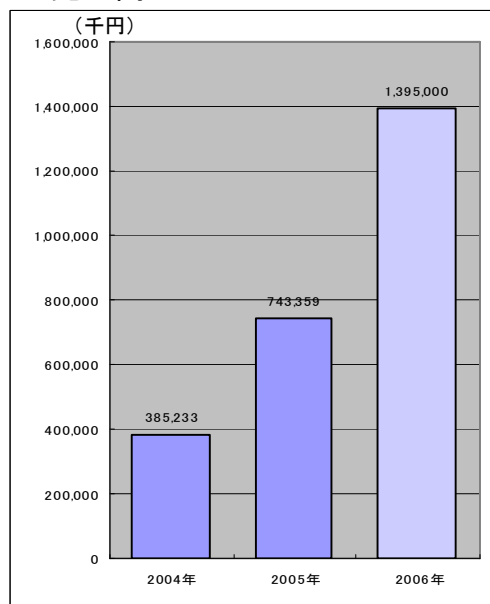
～国内投資だけではなく、中国・韓国におけるプライベート・エクイティ事業を強化し、ライフサイエンス分野を中心に有望なベンチャー企業を対象として、収益機会の拡大と投資パフォーマンスの向上に努める。
～新ファンド組成 / 助言事業の強化（2006年度 30億円の予定）

■ 2006年 期(平成18年12月期) 連結業績予想

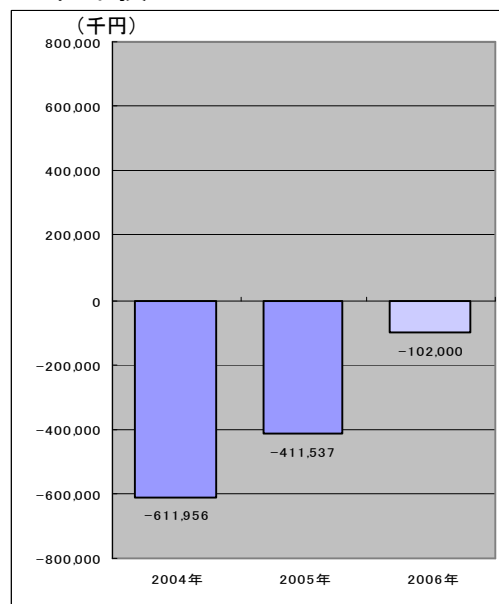
・売上高1,395百万円 ・経常損失102百万円 ・当期純損失192百万円

	2005年	2006年	増減
売上高 (千円)	743,359	1,395,000	651,641
経常損益 (千円)	△411,537	△102,000	309,537
当期純損益 (千円)	△425,542	△192,000	233,542

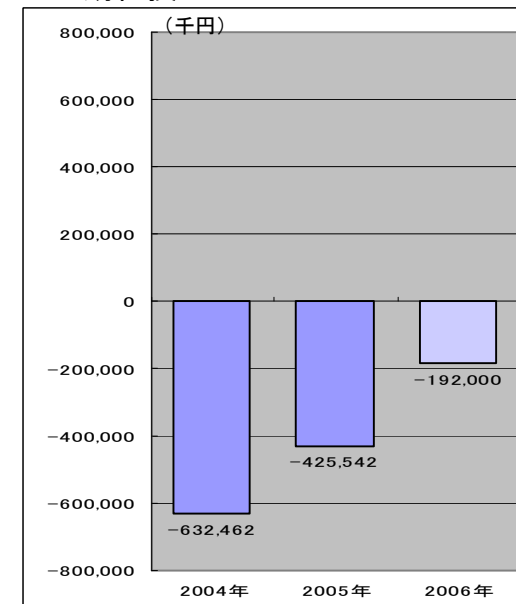
●売上高



●経常損益



●当期純損益



【補足】 抗がん剤 グルフォスファミド

- グルフォスファミド(Glufosfamide)は、構造上グルコースを有するアルキル系抗がん剤で、**膵がん**の適応をターゲットにしている。
- 膵がんは、患者数が多くない一方、**死亡例が多い(※)** **難治がん**の一つ。国内の患者数は**約14,000名(2004年)**で、今後も増加傾向にある。
(※がんの中では、肺がん、胃がん、結腸がん、肝臓がんに次いで、5番目に死亡例が多い)
- 膵がんは、有効な薬剤が乏しい癌腫で、膵がん治療薬の医療上のニーズは極めて高い。
- 米国では、グルフォスファミドを膵がんに対する第二選択薬として、第Ⅲ臨床試験を推進中。THLD社は、同剤について04年春にFDA(米食品医薬品局)から**ファストドラッグ(優先開発対象医薬品)**の認定を受けている。
- メディビックはTHLD社と提携し、日本を含む**アジアでのグルフォスファミド販売による収益の分配の権利を獲得**。
- THLD社とメディビックは、合同の「**共同開発委員会**」を組織し、本剤の国内治験戦略を設計。今後はその戦略に沿って、日本や他アジア諸国での上市を目指し開発を推進。

ご静聴ありがとうございました。

株式会社メディビック
www.medibic.com

◇ 当資料取り扱い注意点

本資料に記載されている、当社または当社グループに関連する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、事業の認識、評価などといった、将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づく、本資料の日付時点における予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・予想数値を算定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・予想を行うために不可欠となる一定の前提(仮定)については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果に係わらず、常に当社が将来の見通しを見直すとは限りません。これらの記述ないし事実または前提(仮定)が、客観的には不正確であったり将来実現しないという可能性の原因となりうるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。